

からすま病院 NEWS

発行：社会福祉法人京都社会事業財団
 京都からすま病院
 〒603-8142
 京都市北区小山北上総町 14
 TEL 075-491-8559
 FAX 075-492-4304

「ソーシャルディスタンス」

本年4月に京都警察病院から京都からすま病院に名称変更した際に、病院理念も「思いやりのある医療の実現をめざす。」に変更しました。この思いやりのポイントはコミュニケーションだと考えています。

そんな中、COVID-19の感染拡大が報じられ、「ソーシャルディスタンス」という言葉が広まった時、真っ先に浮かんだのが、アメリカの文化人類学者エドワード・T・ホールの『かくれた次元（1970年発行）』という本でした。学生時代に読んでそれっきりだったので久しぶりに読み直してみました。

- 密接距離（～18インチ＝約45cm） 身体が接触できる程度を表す距離
- 個体距離（～2.5フィート＝約120cm） パーソナルスペース、簡単に接触できない距離
- 社会距離（～12フィート＝約360cm） 人を互いに隔離・遮蔽する距離
- 公衆距離（25フィート以上＝750cm以上） 公式的距離、一方通行的な距離

もちろん社会学とウイルス対策には直接的関係はないですし、今回広まった「ソーシャルディスタンス」の語源がホールなのかよく分かりません。サラッと読み直した程度で、改めてこの本から学べることがあるとすれば、「社会距離」や「公衆距離」だけでは、人間は孤独感や疎外感を抱いてしまう。COVID-19によって、私たちは、「この人もしかしたらコロナかも・・・」などと不信感を頂きながら、他者と関わらなくてはならなくなってしまいました。「手指消毒」や「マスク着用」に代表される「共通ルール」をつくり、皆がそのルールを守ることで、「この人はちゃんとしている人だ」と信用する。これが日本における異常なマスク着用率の高さの秘密かもしれません。

しかし、同調圧力での信頼感構築には限界があります。思いやりにつながる親近感や信頼感、コミュニケーションを醸成するためには、どうしても「社会距離（ソーシャルディスタンス）」を超えるような機会が必要です。病院の「面会禁止」についても、そろそろ運用を見直す時期に来ているかもしれません。（事務長 平田研一）



職員撮影

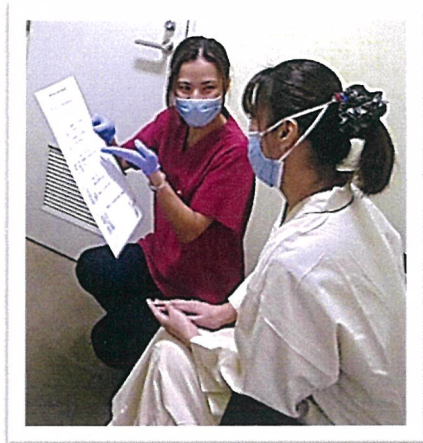
コラム 【ポインセチア】

メキシコ高地原産の植物の改良種。「草」ではなく「低木」。野生種は軽い霜にあたっても枯れない耐寒性があったが園芸品種となって最低温度10℃以上の環境が必要。植物も人間の心身も鍛えないと「柔」になるのかな。とはいえ、養生するときには養生に専念を。新型コロナ感染症も当分は予防策を怠らずに。(Y)

～ 看護部紹介 ～



2020年4月より「からすま病院」として生まれ変わりました。
地域密着型の病院として地域医療機関並び介護・福祉施設との連携に努め、
思いやりの心を持った看護を目指していきます。



外 来

今回は少しでもリニューアルした内視鏡室の紹介をします！

患者さまの緊張が少しでも和らぐように、四季折々の映像や音楽を流して工夫しています。

しかし、特に大切にしているのは、笑顔です。

患者さま一人ひとりと笑顔で接することを大切にしています。

2階病棟（回復期リハビリ病棟）

七夕まつりの時の写真です。

季節ごとに行事を考え、患者さまと職員と一緒に祝いしています。

また、転倒予防体操などをしたり、これからはクリスマス会なども予定しており、みんなで準備しています。

この時期、密にならないように、換気なども考慮し、感染予防に努めています。



3階病棟・OP室

（一般急性期・地域包括ケア病棟）

3階病棟・OP室はその名の通り、患者さんの急性期から慢性期まで看護できる病棟です。

「患者カンファレンス」を開き、患者さんの個性を大切にされたケアにチーム全体で取り組んでいます。

また、手作りの環境整備セットを導入。患者さんに満足頂けるよう清潔なベッドサイドの提供に努めています。安心して、入院生活して頂ける病棟を心がけています！